

**大会に寄せられた**

**メッセージ**

**2016年9月1～2日**

**全学連第77回定期全国大会**

## 星野文昭 高崎経済大学出身 1971年11・14沖縄返還協定批准阻止闘争戦士 徳島刑務所在監、獄中41年

全学連の闘いは、京大バリストの闘いはじめ、参院闘争などこの間の闘いを牽引する闘いだったし、今、京大バリスト弾圧への怒りは、戦争と搾取・貧困への怒りと一つになって、闘いの新たな次元を開くものです。安倍が戦争と新自由主義に1%の資本家の延命を求め、全労働者階級の未来のために、戦争と新自由主義社会反対の京大バリストに立ち上がったことは歴史的正義です。

その闘いに震えあがった京大4名を無期停学によって弾圧することは、絶対に許されることではありません、

どんな理由をつけても、それは安倍の戦争と新自由主義に手を貸し、それを推進するものです。それは、戦前・戦中と重ね合わせても、大学人として、少なくとも、進歩に寄与すべき大学人として、闘うものを弾圧し、戦争・新自由主義に手を貸すことは許されることではないし、弾劾・追放の対象です。

資本主義の終わり、1%の資本家のために99%の労働者人民への搾取を強め、戦争を推進することによってしか成り立たない資本主義は終わっている、終わらせなければならないのです。

そして、何より社会を動かしている労働者にこそ、そして、ともに闘う全人民にこそ、団結し立ち上がることによって資本・権力、資本主義そのものを倒し、終わらせ、戦争も搾取・貧困のない社会づくり運営することができるのです。

そのことを真底から訴え、京大バリスト弾圧粉砕！ 処分者大学追放、戦争・新自由主義の安倍倒せ、戦争・新自由主義という労働者人民との国境を超えた団結した闘いによって、戦争、新自由主義の延命をかけている資本、権力、全支配階級を倒そう！

そこに、人間的真実があり、全労働者人民の未来があります。その未来を拓く、団結し闘う力を。歴史的命が尽きてなお資本の利益蓄積のために労働者人民に搾取と戦争をどこまでも強いようと改憲、戦争、労働法制改悪に命運をかけていることと真っ向から闘うことで、日々磨き手にしていこう。

今、動労総連合の闘いが、それを基軸とした階級的労働運動、国際連帯の闘いが、全ての職場・地域で電撃のように労働者人民の新たな決起を勝ち取る情勢を手にはしています。

それが民主労総と共に、朝鮮侵略戦争阻止、労働法改悪阻止、日韓政権打倒を掲げた11月大闘争を闘うことによって全く新たな地平を開こうとしています。その中で星野闘争も、闘いを圧殺するだけのために、権力自身が無実を一番知っているから、星野無期、42年投獄を強いていることの驚きと怒り、そして、それに屈せず私と昭子が、労働者人民の団結した闘いによって勝利を開いていることに共感と感動が新たに大きな全証拠開示、再審・

解放の闘いと、全労働者人民の団結した闘いで搾取・戦争のない社会を開く闘いを一つに勝ち取っていく道を大きく開いています。全世界の労働者人民の、人間労働を奪い返し、人間的共同社会、人間そのものを奪い返す闘いの勝利と一つに星野闘争・解放闘争の勝利を勝ち取ろう。共に進み、そして、勝利しよう。

## 国鉄千葉動力車労働組合 執行委員長 田中 康宏

第77回定期全国大会の開催を心よりお祝い申し上げます。  
また日ごろのご支援・ご協力に厚く御礼申し上げます。

安倍政権は、危機突破のために改憲・戦争への突進と「働き方改革」と称して労働法制の解体に一举に突き進もうとしています。

30年に及ぶ新自由主義政策は、「社会崩壊」をもたらしています。参院選では福島、沖縄で現職閣僚が落選し、底にひそむ怒りが露わとなりました。数十万人が国会を包囲した原発事故や戦争法に対する闘い、沖縄の闘いなど、「もう我慢できない」怒りが行動となって爆発しようとしています。安倍はこれが職場生産点での闘いと結びついたとき、いつでも社会をひっくり返すものとなって燃え上がるかと戦々恐々としながら攻撃を強めています。鈴木たつお氏への支持も労働運動が目に見える形で登場し、階級対立を鮮明にさせたとき、何十倍、何百倍となっていくことは間違いありません。

大学に対する戦争体制への動員は、軍事研究への協力、国旗・国歌の強制、人文系学部の廃止、経済的徴兵制への布陣など、矢継ぎ早です。京都大学の反戦バリストへの「無期停学」処分はその最たるものです。そして社会に出るときには膨大な奨学金返済を背負わされ、就職は非正規職で生きていくこともできない—こんな現実をなんとしても変えなくてはなりません。目に見える闘いをつくりだそう。

国鉄分割・民営化から30年余、国鉄闘争が闘われ続けたことによって、労働法制の解体や民営化攻撃、改憲・戦争国家化の攻撃を阻み続け、そのことが今、安倍の戦後最大の労働法制改悪攻撃・改憲攻撃と真正面からぶつかり合うものとなっています。最高裁の国鉄1047名裁判のJR採用差別事件の上告棄却の決定は、逆にJRの不当労働行為を認めるものとなり、戦後最大の労働運動解体攻撃を突き崩す手がかりをつかもうとしています。

戦争の危機の切迫の中で、今年の11・6労働者集会は、民主労総ソウル地域本部との共同のよびかけによって、全世界に呼びかける集会となりました。大結集をぜひともお願いします。戦争と民営化の安倍政権打倒！ とともに闘いましょう。

貴大会の大成功を心より祈念いたします。

## 国鉄水戸動力車労働組合 執行委員長 石井 真一

全学連大会に結集した学生とすべての仲間みなさんに、動労水戸から連帯のメッセージを送ります。

時代は、完全に革命情勢に突入しました。戦争なのか、革命で労働者階級が権力を奪うのかという情勢です。

日帝ブルジョアジーは、天皇を政治の前面に出してきました。8月8日天皇アキヒトから生前退位のメッセージが出されました。この事は、日帝の支配の危機が迫っているという事にほかなりません。戦後沖縄を売り渡し、戦後革命情勢から現在の憲法を強制されたブルジョアジーが最後のカードを出してきたと見るべきです。

第3次安倍内閣は、20閣僚の内、15名を「日本会議」から選出し、極右・ 稲田朋美を防衛大臣にすえました。改憲と戦争に向けて、体制を構えています。

一方、労働者階級・労働組合の解体を焦点化させています。安倍は、最大のチャレンジとして、「働き方改革」と称して、正社員ゼロから全労働者の非正規化を貫徹し、「非正規労働者」という言葉をなくすと豪語しています。同一労働・同一賃金とは、すべての労働者を「低賃金で」「いつでも首が切れる」労働者に転落させようとしています。その現場的激突が、動労千葉が闘うCTS就業規則改悪の攻撃です。

全学連の仲間は、昨年10月京大でストライキ闘争貫徹しました。戦争反対闘争を大学で実践し、圧倒的支持を受けました。その反動として、7月12日4名に無期停学処分が出されました。なぜ戦争に反対することが無期停学なのか、絶対に許すことができません。

同じ7月12日動労水戸は、常磐線を原ノ町駅～小高駅延伸に反対して、17名がストライキに突入して、いわき駅に総勢60名が登場して闘いました。

動労福島は、小高駅式典砕砕闘争から原ノ町運輸区抗議闘争を闘い抜きました。動労東京は、JR東日本本社抗議闘争に決起しました。動労総連合が、原ノ町～いわき～東京を貫いて、常磐線全線開通反対・被曝の強制反対・帰還強制反対を闘い抜き、安倍政権に大打撃を与えました。

一方同日習志野ユニオンでは、委員長と書記長がデッチ上げ逮捕され、動労総連合本部であるDC会館不当家宅捜索が長時間行われました。いかに参議院選挙で、「新しい労働者の党をつくろう」という運動に追いつめられていたのかということです。その先頭に全学連の学生が先頭で闘い抜きました。全学連が参議院選挙で獲得した地平で、今後全大学を席卷することだと思います。

全学連は斎藤委員長を先頭に、戦争と改憲を前にして解散するシールズなんていうインチキ組織を踏みつぶして進みましょう。

動労水戸は結成30年を迎えます。国鉄分割・民営化に反対して、すさまじい不当労働行為の嵐にも屈せず、外注化と被爆労働に立ち向かっています。学生のみなさんと社会を労働者階級に取り戻したいと考えています。

動労水戸は、9月3日からドイツへ向かいます。辻川副委員長、木村書記長、會澤特別執行委員3名が国際連帯を広げるために尽力します。

そういう激動の渦中で、動労水戸も11月労働者集会に向けて、全力で茨城と職場を席卷していきます。共に勝利を勝ち取りましょう。

## 国鉄東京動力車労働組合

全学連の仲間みなさん、第77回定期全国大会の開催おめでとうございます。皆さんの奮闘に心より敬意を表します。とりわけ、昨年10月の京大反戦ストライキは、動労千葉のストライキとともに、「戦争を止める道」を真に指し示す歴史的な闘いでした。あの全学連の決断と決起があったからこそ、2016年の激動を展望をもって闘い抜けていると確信します。

私たち動労東京も、昨年の安保国会決戦の総括の中から本格的な議論を開始し、1年にわたる激論と闘いを通して、今年の6月1日に結成することができました。結成の最大の意味は、全学連の仲間とともに、ストライキの復権とゼネストを闘い取ることにあります。

いま、問われているのは労働運動が力を取り戻すことです。動労千葉・田中康宏委員長は、参院選の総括で、「僕たちのやることは本当に階級的労働運動にかけること。資本家階級と労働者階級の衝突を作り出す。ゼネストやデモで、労働運動が目に見える形でぶつかっているという姿を生み出すことだ」と訴え、11月労働者集会の1万人結集を強く呼びかけました。また、民主労総は、現下の革命的情勢を革命へと転化する課題の核心に「民主労総自身が80万組合員を代表する組合主義的アイデンティティではなく、2000万労働者階級を代表する階級的アイデンティティとして自らを革新することだ」と訴えています。民主労総ソウル地域本部の仲間が、今年の11・6労働者集会（東京）と11・12の韓国・労働者全国大会（ソウル）をひとつのものとして全世界に呼びかけようと提起したことは、労働者の力で社会を革命しようという訴えそのものであり、その成否は私たちにかかっているといえるのだという渾身の訴えです。ついにこういう情勢を切り開いたと共に、画然たる飛躍があります。

今年は、動労総連合結成30年です。改憲が動き始め、労働者の生きる権利が根本から奪われようとしている中で、問われているのは日本の労働運動全体です。

7月26日に相模原の障害者施設「津久井やまゆり園」で起こった障害者虐殺事件は、労働運動が力を失ったときに一体何が起こるのかということをも主体的につきつけました。かつて、やまゆり園には、指定管理者制度＝民営化との闘いがあったと聞きます。しかし、労働組合が解体され、低賃金、強労働、非正規の使い捨て労働の強制が行われたことと一体で、労働の誇りや人間的共同性、階級的団結が奪われたことが「障害者には生きる価値がない」としてその虐殺を公然と正当化する、許せない非人間的思想と行動を生み出した根本にあります。

こうした中で、私たちの国鉄闘争がもう一度注目されているのは、戦後最大の労働運動解体攻撃であり、改憲と貧困・非正規の出発点が国鉄分割・民営化であったという原点です。私たちが今なお国鉄闘争を継続するのは、国鉄分割・民営化に決着をつけることを通して、労働者自身が奪われた誇りと団結を取り戻し、労働組合を軸とした人間的共同性を新たに打ち立てるためです。人間が人間らしく生きること、その社会を実現するためです。

動労東京の闘いこそが問われています。安倍－橋下と組んだ小池都知事の「東京大改革」は、「国鉄分割・民営化」を東京でやろうということであり、東京の労働運動を甦らせる最大の決戦です。なにより、職場で仲間とともに闘いを始めることです。労働者階級の解放は労働者自身の事業です。職場、キャンパスから闘いを本格的に開始し、11月国際連帯行動の歴史的な成功を勝ち取りましょう。

## 全国水平同盟 執行委員長 久原 正子

第77回全学連定期全国大会の開催おめでとうございます。また日ごろのご支援・ご協力に、厚く感謝いたします。

7・12京大当局による、戦争・改憲に反対してバリストの先頭で闘った4学生に対する「無期停学」処分を、断じて許すことはできません。この弾圧は、戦争と改憲に反対する全ての労働者人民への弾圧です。全国水平同盟は、「処分粉碎」のために全力で闘うとともに、10月3日の京大開講日決戦には、全国から総決起することを宣言します。

今、世界は革命情勢です。この革命情勢を青年労働者と学生を先頭に、国際連帯と階級的労働運動の前進、党と労働組合・学生自治会の一体的建設でゼネストー世界革命に転化し勝利しよう。

朝鮮侵略戦争が切迫する中で、アベノミクスが完全に破綻し、日本経済が世界最悪の危機に陥っています。この中で、日帝・安倍は戦争と改憲・労働法制の解体攻撃に絶望的にのめりこみ、また、天皇と天皇制が危機の前面に引きずり出されています。しかし、新たな世界戦争危機が急切迫する中で、労働者階級の怒りの大反乱・大ゼネストが韓国、フランス、ブラジルー全世界でまき起こっています。安倍政権に対する怒りはますます燃え広がっています。何よりも、国鉄闘争が営々と闘いぬかれ、階級的労働運動勢力と全学連が改憲・戦争攻撃に立ちはだかっています。闘えば勝てる。国際連帯で朝鮮戦争・世界戦争阻止、改憲阻止・労働法制改悪粉碎の11月国際共同行動かちとり、ゼネスト・世界革命へ前進しましょう。

鈴木たつおさん押し立て、「新しい労働者の政党を作ろう」を訴えて闘った7月参院選の先頭で奮戦する全学連街宣隊の姿とアジテーションには感動と勇気をもらいました。キャンパスや街頭、国会前での若い革命のリーダーたちの登場を目の当たりにして頼もしいかぎりです。革命期こそ、若々しい青年の突撃が歴史を決します。本大会の成功をもって、不当処分撤回闘争から全国大学反戦ストライキへ、全学連の進撃を心から期待します。

私たち全国水平同盟は、非正規職撤廃を正面課題にすえ、国鉄決戦を軸に階級的労働運動の先頭に立ち、ゼネスト・革命勝利に向けた地域ソビエト建設に全力で挑戦しています。2014年、西郡8家族に対する住宅追い出し強制執行攻撃を打ち返し団結を守りぬいた闘いは、部落解放運動を労働組合の階級的団結で闘いぬく画期的路線を打ち立て、高槻支部・植木団地労組の結成、京都・崇仁支部準備会の結成、東三条の合流へと組織拡大し、さらに奈良の闘いへと前進しています。

50年を超える石川一雄さんの闘いは、新自由主義との最前線の闘いです。石川さんは、再審勝利の日まで、「血の一滴まで徹底的に闘い抜く」と戦闘宣言を発しています。星野文昭さんの闘いとともに、全証拋開示を勝ちとり、狭山第3次再審闘争に勝利しましょう。私たちは全国に水平同盟の旗を打ち立て、「生きさせろ！」の先頭で闘います。

全学連大会に参加のみなさん。世界と未来は、青年・学生のものです。11月東京・ソウル・全世界共同行動へ、共に闘いましょう。

全学連のみなさん、第77回定期全国大会の開催おめでとうございます。

## 全国労働組合交流センター 事務局長 飯田英貴

11月国際共同行動の成功を共に勝ちとりましょう

全学連のみなさん、第77回定期全国大会の開催おめでとうございます。京大4学友への「無期停

学」処分撤回ー改憲・戦争阻止の全国大学ストライキを決意し、その中に300万学生の未来をかけて飛躍しようとしている全学連の皆さんに心から敬意を表します。

先日、全学連大会に向けた女子学生のメッセージを読ませてもらいました。「毎日働いても未来がない状況は戦争で傷ついているのと同じだ」「それなのに大学の授業は現実ととてもかけ離れている」ー私たち労働者の置かれている現状、その気持ちと全く同じです。いや、もっと主体的に言えば、私たち労組交流センターが結成の原点に立ち戻る思いでいます。

「労働者が世の中をつくり、社会を動かしている。しかし、資本主義社会のもとでは労働者はただ資本を増殖させるための手段にすぎない。だから搾取の廃止、労働者階級の解放に向かって闘わなければならない」ーこうしたことはこれまでの既成の労働運動の指導部たちも言ってきました。しかし、それが資本家階級との最前線の攻防である職場において内在化された提起としてなされてはきませんでした。革命や労働者の解放が、現実の労働や職場から切り離され、労働運動は資本への要求運動、政府への政策要求へと切り縮められていったのです。これに対し、「労働者階級の解放は労働者自身の事業である」ーこのことを労働運動において貫いたのが動労千葉労働運動でした。その動労千葉を旗頭にして労組交流センターは結成され、今日まで闘い抜いてきました。新自由主義が崩壊し、資本家階級にとって、戦争以外に出口がなくなったいま、ますます問われているのは労働運動の変革です。

今年の11月は、民主労総ソウル地域本部の仲間が、11・6労働者集会（東京）と11・13の韓国・労働者全国大会（ソウル）をひとつのものとして全世界に呼びかけようと提起してくれています。その中で、民主労総は、「人間は与えられた条件の中で活動しながら、同時に、生きている人間主体の能動的・目的意識的、創造的実践が歴史の歯車を一歩ずつ前進させるのだ」と言っています。歴史が変わろうとしているときに一番大切なことは、歴史を変えようという人間自身の主体的意志と行動にあることを訴えています。

ゼネストをやろう、全国大学でストライキを闘おう、新しい労働者の政党を作り出そうというのは、その闘いを通じて労働者や学生自身が「自分たちが生産の主人公であり、社会の主人公である」ことを発見し、自覚し、飛躍していくことに核心があります。そのことを意識的に闘いとうるのが11月に向けたこれからの3ヶ月決戦であろうと思います。全学連の闘いはその最先端です。11月国際共同行動の成功にむけ、共に闘う決意です。必ず勝利しましょう。

全学連のみなさん、第77回定期全国大会の開催おめでとうございます。

## 日本IBMビジネスサービス労働組合 執行委員長 富田 晋

全学連の同志の皆さん、日々の闘いお疲れ様です。IJBS労組よりメッセージを送ります。

この間の皆さんの闘いは今までと一線を画するほどの前進を作り出していると確信しています。全学連の緊急事態法を巡る国会前闘争への歴史的な登場から開始された現在の闘いは、京大への反戦バリスト闘争へと発展し、全学ゼネストへの道筋を一挙に切り拓きました。同時にその闘いは、全学連の闘いを全国に知らしめ、支持・団結を拡大しています。それはマスコミが全学連の闘いを取り上げざるを得ないほどです。権力中枢による大学当局と一体となった弾圧も、むしろその前進を恐怖する敵階級の姿を鮮明にしています。また、その最大の実践としての参院選、鈴木達夫候補を先頭とする全学連の実践は、今までの限界を乗り越えるものを作り出しています。鈴木達夫候補を支持した16189票は、まさにその証明と言えます。

何よりも、沖縄大学自治会の存在と闘いは沖縄における「全島ゼネスト」を現実的に作り出す発火点となろうとしています。朝鮮侵略戦争の最大の出撃基地である沖縄において、沖縄大学の闘いは沖縄・全国のみならず、全世界の労働者・学生の闘いの決定的な位置を持っています。同時に、学生が非正規労働者化される現実を学園から暴いた事は沖縄闘争を学生・労働者という分断を乗り越え、統一した闘いへと螺旋的に回帰させています。

一方で、沖大自治会の闘いは「オール沖縄」を標榜する御用学者達が、自らが「日米安保同盟」と「新自由主義政策」に全面的に屈服し、そこに学生を屈服させようとしている姿を暴露しました。同時に、私たちIJBS労組の闘いは書記長の解雇撤回闘争を軸として、「派遣法」と真っ向から対決する事で「オール沖縄」と御用労組を乗り越える闘いを作り出しています。この二つの闘いは学生や非正規労働者が決定的な存在である事を証明し、「オール沖縄」や体制内思想を乗り越えて、学生・労働者が立ち上がれば必ず勝利出来る事をはっきりさせてきたのです。この実践が辺野古新基地建設を阻み、6.19の元米海兵隊員による女性殺害事件に抗議する県民大会(6万5千人結集)へと繋がり、「全島ゼネスト」を訴えて登場した私たちに数万の労働者・大衆から支持する万雷の拍手が巻き起こる事態へと発展させています。

また、全学連の仲間達が国鉄闘争・動労総連合の闘いを一体のものとして、「労働・学園の奪還」を掲げた事は決定的です。この路線の下での学園拠点・職場拠点での屹立は、全情勢を牽引し、決定する力を担っています。私達はこの中から絶対にゼネストを勝ち取る事が出来ます。そして、沖縄全島ゼネストを実現する事は全世界の労働者への分断を打ち破り、全世界を獲得する闘いとなるのです。

私達はこの激しい時代情勢の中で、労働者・学生が決起していく確信を掴み、団結する事を通して革命の現実性を手にしているのです。こんなにもワクワクする闘いは他にありません。その現実へのたうち回る資本家に引導を渡してやろうではないですか。全ての力と怒りを11月の東京・ソウル集会に結集させ、全世界の労働者と共に爆発させましょう!! 共に最後まで!!

## 都政を革新する会 北島邦彦

革命運動の切っ先となり、新たな時代を先頭で切り開くのは青年・学生です。その歴史的・階級的な使命を担うべく、全学連に結集する闘う学生のみなさんは、圧倒的な闘いと組織の強化を実現しています。さらに怒涛の前進をやりぬきましょう！

全学連の仲間のみなさんとは、このかんの数次にわたる選挙闘争の街宣現場で、私たちもともに闘ってきました。その場で実感した、全学連のみなさんが身につけている政治的内容の高さ・豊かさ、躍動感あふれる一つひとつの行動、そして何よりも団結力の強さ！革命の原動力をそこに感じることができました。

世界大恐慌は日本経済を最弱の環としながら、底なしの泥沼化しています。「アベノミクス」はその虚構を自己暴露し、もはや打つ手が無いままに、「1%」の利益のみを求める貪欲な行動に突っ走っています。それは北東アジアをめぐる戦争の危機が増大している情勢と一体であり、安倍政権による改憲・戦争の攻撃として対決構図はますます鮮明です。

いまこそキャンパスから戦争反対のストライキを！京大反戦ストライキ処分撤回闘争は、明らかに全国大学反戦ストライキ闘争の導火線となるはずです。ともに闘いましょう！

## 婦人民主クラブ全国協議会 代表・三浦正子

全学連大会開催おめでとうございます。メッセージを送ります。

全学連のみなさんの日頃からの奮闘、特に先の参院選での先進的な闘いに心から敬意を表します。

資本主義がいきづまり、三度の戦争―核戦争に打って出る以外なくなっている中で、私たち婦人民主クラブ全国協議会は、全学連のみなさんとともに国境を越える団結・連帯を広げて絶対に戦争を阻止していく決意です。この秋韓国民主労総から呼びかけられた東京―ソウル11月世界共同行動こそその決定的チャンスととらえています。

現代社会で人間らしく生きていくということは、自らのいる場所そのもの―職場・キャンパス・地域で立ち上がり、団結をつくり矛盾だらけの現実を変革していくことだと強く思います。みなさんがまさにそのことを実践していることに励まされています

「昼休みにクラス討論を呼びかけたら、教授が弾圧職員に通報。当該学生が排除された後にその教授は『ナチスの言論弾圧』について講義をした。この件で学生は『授業妨害』で『無期停学』になった、という話を聞きました。今の「リベラル」などという連中のインチキさ、階級的役割がこんなに明らかになった例はないと思いました。大学に通うために風俗で働かなければならず、心はボロボロという女子学生。アルバイトのために学校に行くことが出来ず講義に出ることができない。「講義が遠くに感じる」という。こんな転倒したありようをおかしいと感じている人はものすごく多いはずです。そして京大反戦バリストは、京大当局による4学生への無期停学という前代未聞の処分になって表れていますが、「自由な京大」の実態がどんなに浅いものかを明らかにしました。この秋全国で決起し、反戦ストライキをトコトン組織していこうとしている全学連のみなさんのたかいを断固支持します。そして転倒した現実と本気で闘うみなさんに続きたいと思います。

7/26やまゆり園の事件に対して、「ヒトラーの障害者抹殺と同じだ」との評論に終わらせてはなりません。戦争にいきつかざるをえなくなった危機の安倍政権への怒りを倍加させ、私たちは婦民全国協の本部がある相模原を先頭に職場と地域で労働を奪還し、分断を打ち破り、団結・共同性を奪い返していく決意です。根底からの社会の変革―革命が本当に必要です。韓国はじめ立ちあがる世界の労働者民衆と団結して進もう！

全学連大会の成功を祈念します。

## NAZEN事務局長 織田陽介

全学連第77回定期全国大会おめでとうございます。

時代は大きく動き出しています。「世界大恐慌」という言葉が、イギリスのEU脱退をめぐってテレビでも語られ始めました。脱退が決まった当日、世界の株価は暴落し、数百兆円の株の価値が失われた。ざまあ見ろということです。EUという、他国を国家規模で搾取する構造を使って、ギリシャ始めヨーロッパの国々を破産にするほどに生き血をすすり、国内では大量の若者を失業と非正規にたたき込んでボロ儲けしてきた連中。その上、戦争まで起こして儲け、大量の難民を生み出して国家が崩壊するところまで現実が進行している。汗も流さず株にうつつを抜かしてきた彼ら資本家連中のありようが、最終的に終わりを告げたのです。汗水流して世界を動かす労働者こそが、

天下を取るときがきたと思います。アベノミクスも崩壊は必至です。年金も郵貯もつぎ込んで破綻した先には、日本資本主義の終わり以外にいかなる結論もありません。労働運動を解体することもでないまま、改憲攻撃につっこむ安倍の焦る姿。日本の労働者は必ず立ちあがる。だからこそ、学生運動の出番だと思います。

都知事選における小池の「圧勝」は、闘う者にとって、たくさんの示唆を与えたと思います。第一に、敵の根本的危機です。反自民を掲げなければ、「昨日と同じ明日を拒否する」ような東京の労働者の変革への欲求を制することもできない現実。これは新自由主義30年の帰結です。第二に、国鉄分割民営化によって労働運動解体と改憲をめざした敵階級の狙いは破綻し、東京で必死に民営化を強行する、そのために都議会の自民党の既得権益を粉砕していくという敵階級の必死さです。第三に、これをあたかも「革新」であるかのように粉飾し、この偽の革新に対する対抗力が、偽の革新を暴き出し、労働者の時代を切り開くものであるどころか、戦後の国家独占資本主義政策への回帰を願う保守でしかない現実。変革を求める労働者の真の欲求を現実のものとしてさらけ出し、組織していく勢力の登場が喫緊の課題となっていると考えます。

原発・核をめぐっても参院選を起点に大きく情勢は動き出しました。伊方原発の再稼働、避難区域の解除と帰還強制、その先頭に立つJRの常磐線再開攻撃。自民党と公明党は、帰還困難区域（年間50ミリシーベルト）の一部解除すら打ち出そうとしています。そして放射性廃棄物の再利用基準8000ベクレル化（80倍）と被曝労働の強制。自治体労働者には避難住宅からの追い出し業務を強制しています。子どもたちの安全を守るどころか、積極的に虐殺を続ける国家の姿に、再び3・11の時のような国家の姿の暴露と怒りの噴出、労働者たちの労働の誇りをめぐる葛藤が渦巻いています。福島とともに、東京こそが反原発運動の最大の攻防点となろうとしています。被曝労働反対・帰還強制阻止をめぐって、東京でこそ反原発運動を別の次元に進めていく決意です。

時代の転換点において、大学は重大な位置にあると感じます。全社会的なデマの横行。人間が仲間をつくり人を愛し、次世代を育てその歴史を継承していくことにすら土台を築けない学問。行動なき口先だけの「理論」。大学の「真理探究」の本来の任務を取り戻さなければなりません。古い世代の価値観を粉砕することなしに未来は開かれませんが、大学において学生よりもこの力をもつ者は存在しません。全学連大会こそが、存在をかけた討論と情熱的な行動方針、大学の本来の任務を全うできる場として成功することを確信いたします。

### 3.11反原発福島行動実行委員会 椎名千恵子

「**国家と資本の延命**」に、**フクシマを食食物にするな**。

いまや日本における新自由主義の崩壊は歯止めをかけられない状態です。存亡の危機感にかられる国家体制は、3・11福島原発事故6年目の福島にいのち抹殺攻撃をさらに強行してきています。資本主義の存命をかけて復興バブルを「創生」する、あまりにも露骨で政治的戦術の経産省の福島復興予算が目白押しに計上されています。「経産省、2017年度予算、概算要求案『福島から未来を発信』…総額473億。その極一部の細目・未来を先取りプロジェクトの実施・避難指示が解除される区域の太陽光発電の推進・南相馬と浪江に町に整備するロボットの実証試験を行う拠点設立「ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト」etc(8月26日・福島民友新聞紙上より)「未来、復興」という名を語るまことしやかなこれらの事業は、核の平和利用としての原発建設に群がった、資本・原子カムラのハイエナが更に、フクシマを喰い物にする構図その

ものです。県民のいのち、未来のためという本質をもつ政策と誰が思うか。安倍戦争政権・国家権力と資本の延命を許してはなりません。一刻も早い、いのちの側、労働者大衆による政治の奪還が必要です。

来年の3月には、自主避難者への住宅の無償提供支援が打ち切られます。葛尾村、川内村に引き続き、「いまだに家の中が、毎時0.7マイクロシーベルトもある」南相馬の小高地区も避難指示解除、帰還困難区域の一部解除計画も発表されました。非人間的、抑圧的な福島抹殺、いのち抹殺に全身怒りが煮えたぎります。これらの問題に、福島は、ふくしま共同診療所を拠点として大運動を展開しようと熱くその具体策を討議中です。

7・12の常磐線(小高一原ノ町)再開への抗議行動に次ぐ闘いとして、子ども・いのち・、未来を守るには、99%の労働者階級が生きる主体として、この腐敗しきった社会を変えていこうと自らを奮い立たせること。国家権力、資本の存在、1%を権力の座から突き落とし、未来に責任をとっていく社会の主人公として屹立して行こうと訴えます。福島の怒りを、希望として組織する闘いを組みながら、「11・6東京から11・12ソウルへ」と韓国の民主労総ソウル本部より全世界の労働者に呼びかけられた世界連帯行動へと向かい、さらに3・11へとひた走ります。

**フクシマ問題と全学連の敵は一つ、闘いは一体！**

いのちの存在そのものへの危機感、生活、自分の居場所そのものが、国家と資本の論理で狭められ、損なわれて行くことへの危機感、怒り、フクシマ問題と全学連の敵は同一です。大学・学問全体の変質・腐敗一軍事研究の推進、「経済的徴兵制」の開始、「国旗掲揚・国家斉唱」強制、「大学の戦争動員」はこの犯罪性はフクシマにおいて医療を国家の統制管理下におくことに現れています。文科省は放射線災害医科学研究拠点として、広島大に原爆放射線科学研究所、長崎大には原爆後障害医療研究所福島県立医大には、国際医療センターを設置し、まさに福島をセンター的位置でもって“いのち抹殺体制”を推進中です。県立医大の菊池臣一学長の言質「県民の健康問題を長期に渡って見守るという歴史的使命をもっている」は、欺瞞以外の何物でもありませんでした。その破綻が県民健康調査検討委員会は、「甲状腺検査の対象者縮小や検査見直しを視野に入れた議論に着手する」~福島民友8月8日付け~の発表であらためて明らかになりました。そもそも検討委員会は、甲状腺がん問題を「現時点で放射能の影響とは考えにくい」として、国家権力の先鋒になってきたのです。“事故当時、5歳以下の子どもにがんが発見されていない”という最後の論拠が、患者の出現によって崩れ、今後ますます増大することが予測される厳しい被曝の現実からの逃亡、事故隠しです。

大学・社会でいのち抹殺の論理が闊歩する事態、ここに未来は約束されません。真実を我々、自らで奪い取る闘いの必然がまたここに生まれます。

**世界は革命情勢。その萌芽の体現者として全学連がいる！**

この参院選は、革命的人格・鈴木たつおさんを帆先において、今に現存する絶対反対で闘う労働組合が、タービンを間違に回している存在として強い説得力をもっていました。輝かしく張りつめた帆そのものは、全学連のみなさんでした。時代の風を心地よく受け止めながら街宣の日々を渾身で闘う姿は、見る人全ての心をとらえずにはおきませんでした。瑞々しい感性と若い翹もつ身体を媒体に、マルクス主義への確信と「革共同50年の歴史」を身に継ぐ本質、そこを備えて現れているのですから、無敵です。

世界革命情勢という航海戦を、共同のものとして闘って行きましょう。

## 弁護士 西村 正治

時代の先端を切り開く全学連のたたかいに敬意を表します。熱く、堅く連帯して闘っていきたいと思います。

戦争の時代の治安弾圧法制＝共謀罪が、ついに4度臨時国会に出てこようとしています。なんとか叩きつぶしましょう。